



低 處 高 思

～自ら啓き 未来を拓く～

令和6年1月11日

発行 北垣内 博

思いを寄せ、共に伸びる覚悟を決めて…3学期スタート

「明けまして、おめでとうございます。」この新年の挨拶には、新しい春を迎え、芽が出るという意味があり、芽が出て成長し、豊かな収穫に向かう第一歩として、自然への感謝の意味を持っているとされています。私たちは、自身の芽をしっかりと育てていく、それぞれが力を伸ばしていく決意を固める意味も含まれると考えられます。



皆さんはどのような思いで、2024年元旦を迎えられたでしょうか。私の帰省先、千葉県は素晴らしい天候に恵まれました。雲一つない青空に冠雪した富士山がくっきりとした姿を現しました。気持ちのよい朝を迎え、石川啄木の歌、「何となく 今年が良い事あるごとし 元日の朝 晴れて風なし」を思い出しました。

しかし、その日の夕方、啄木の歌に思いを寄せる私を戒めるように、石川県能登半島を震源とする巨大地震が発生しました。多くの方が命を落とし、今なお不自由な生活を強いられている方が大勢います。また、翌日には羽田空港で前代未聞の航空機事故も発生し、5名の方が亡くなっています。今ここで、ご冥福をお祈りすると共に一日でも早く復興が進むよう、私たちにできることを考え続けていく覚悟を決めたいと思います。

さて、3学期は、2学期に比べればおよそ半分しかない、大変に短い学期ですが、この僅かな日々の学校生活が、生徒にとっても、中込中学校にとっても、どんなに大切であるか、言うまでもありません。

3年生は、進路決定のための一日一日です。そして、卒業のための一日一日です。それらは、目に見えて待たなして迫ってきます。人に流されるのではなく、自分の意志と考えをしっかりと固めて、本日から具体的な言動として実行してほしいと思います。

2年生は、学友会を立ち上げていくための一日一日です。そして、修学旅行のための一日一日です。集団の中にあって、自分を生かすということは、どうすることか、真剣に考え、気持ちを込めて、一つ一つの言動を大切にしてほしいと思います。

1年生は、2年生と共に学友会を充実させるための一日一日です。そして、新入生を迎えるための一日一日です。新入生を迎えるにあたって、2学期までの学校生活を具体的に見返し、目に見える改善を実行して、上級生として堂々と新入生を迎えられるようにしてほしいと思います。

各学年、異なる目標であっても、その実現のために具体的に努力する3学期が、来たる令和6年度の中込中学校の姿だと私は考えています。わずか47日間の3学期です。いい加減な生活をするわけにはいきません。そして、いい加減な生活をさせるわけにはいきません。

生徒一人ひとりが、きっと心に期するものがあると私は信じています。ただ、一つ忘れてはならないことがあります。「無風は、順風にあらず」です。ときには、逆風も吹くことでしょう。生徒と職員が一緒になって、怯むことなく立ち向かっていきたいと思っています。

今年も保護者、地域の皆様のご理解とご協力、よろしくお願いいたします。